

「建築」という行為は奥深くて面白い

建築デザイン

恩田 恵以 氏 (高校40期)

プロフィール

東京藝術大学美術学部建築科卒、同大学院修了
12代目 伊藤平左エ門建築事務所 入所
その後、パートナー峯田建とスタジオ・アーキファーム一級建築士事務所
設計の傍ら、自然農で米と大豆を自給。
美術教室「ガモウスタジオ」主宰

賞歴

住まいの環境デザインアワード(グランプリ)、国土交通省サステナブル住宅賞、
埼玉県環境建築住宅賞、グッドデザイン賞、など

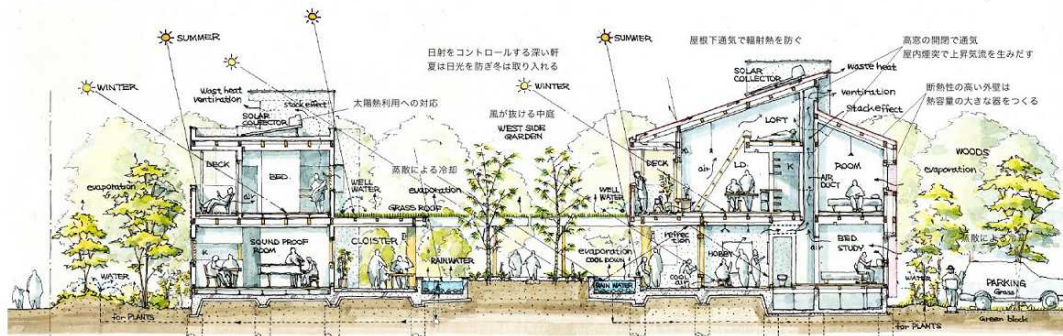


■建物を設計する意味って？

息子たちには言われます。「お父さんとお母さんのやっていることって意味があるの？」と。小さな住宅を1つずつ丁寧に設計したところで、社会的な意味があるのかと。私もそう思います。住宅なんて究極には住めればいいし、もっと他にわかりやすく人類や地球や宇宙のためになる仕事や行いもあります。芸大に入ったばかりの時、都市工学の教授が開口一番私達に言ったことも同じでした。「君たち、自己満足的な住宅を1個ずつ丁寧に作ったところで、世の中変えられると思ってんの？」と。私は、そもそもの動機が「自分が気持ちよく暮らしたい」だったので、むしろ「え、建築って世の中を変えるものなの？」と思ったくらいなのですが、。

私のパートナーはその真逆で、いつも(おおげさに言うと)宇宙のことを考えて設計している種類の人です。できるだけ人間が環境に負荷をかけないでどうやっていけるか、さらに言えば、人間も環境に何か恩返しを出来ないか、と考えていて、「人間だけが自然環境の中で環境を享受するだけでなにも返してないんだよ。人間だけが自然環境のサイクルのなかで要らないんだ。」とよく言います。なのでせめて自分が死んだ時は鳥葬してほしいそうです。今までさんざん色々な命を食したこの肉体を、死んだ時くらい鳥やバクテリアにでも食べて頂きたい、焼いてしまったら食べられないじゃないか。と言います。

でも「環境のことだけ考えたらこうなりました」というようなものも作りたくない。合理的だったらなんでもいい、というのはまだ進化途中で、きっと合理性が追求されて究極に時間をかけて進化すると、「合理性と美しさ」が備わるのかと思うのです。(この美しさ、ということに言及するとまた大変なのでやめておきます)例えば、何万回の振動にも耐えるように薄く軽くできている蝶の羽や、合理性だけでしか作られていない印刷工場の排煙ダクトだらけの建物が、時に美しいと思えるように。



集合住宅『WAnest』コンセプト図



集合住宅『WAnest』中庭

■建築の面白さとは

建物の多くは、とても個人的な私物・資産でありながら、一方では、建ててしまうことにより、町並みや温熱環境など、色々なことに影響を与えてしまうものです。でもだから「建築」という行為が奥深くて面白い、と思うわけです。

「世の中を変えたい」と思うのもよし、「一日30分でいいから、リラックスタイムを過ごせる居心地の良い場所がほしい」という要求から発想してもよし。

そんな「毎回異なる課題に対して答えを出す」面白さに加え、しかもそれが合っていたのか、良かったのか悪かったのか、施主が喜んでくれたのかそうでなかったのか、宇宙のためになったのかならなかつたのか、何十年も経たないと分からない。未だ模索中です。